

## ○ 豪州フィードロット飼養頭数 109万頭と「前例のないレベル」に一ALFA

豪州フィードロット協会 (ALFA) が 23 日に公表した 17 年 6 月期 (4~6 月) の豪州フィードロット飼養頭数は、前期 (3 月期) から 7.1% 増加して 108.9 万頭と「前例のないレベル」(ALFA) に到達した。前年同期比では 19.6% 増加となっている。前期から 36% 減少した西オーストラリア (WA) 州を除いた、残るすべての州で増加が記録されており、前年同期比では 19.6% 増加となっている。

南オーストラリア (SA) 州は前月から 4,371

頭 (14.6%) 増加して 3.4 万頭、クイーンズランド (QLD) 州が約 7 万頭 (12.5%) 増加して 62.7 万頭となった。

現地の干ばつ気味の気候によって牧草肥育農家の需要が低下。肥育素牛価格の下落によってフィードロットの購買意欲が強まったものとみられる。世界的な穀物生産の増加を受けて 16/17 年度の豪州の穀物価格が低下したことなども増加に寄与したといえる。

## ○ 香港でマスコミ向け和牛 PR セミナー、和牛の新ロゴマークを紹介—輸出促進協

日本畜産物輸出促進協議会は 16 日、香港のニューワールドミレニアムホテルで、現地マスコミを対象にした和牛の PR セミナーを開いた。同地で開催された国際食品総合見本市 Food Expo 2017 (17~19 日) に合わせて、和牛の認知度向上と他国産牛肉との差別化、輸出拡大を図るために実施したもの。現地マスコミ関係者ら 120 人が集まり、香港での和牛の注目度を表していた。



セミナーでは、新たに作成した和牛のロゴマーク (=図) が初めて紹介された。新ロゴマークは、“WAGYU”を強調した従来ロゴと比べて、大きく“JAPAN”(日本産)を強調している。同協議会事務局によると、海外市場において豪州産“WAGYU”マークなどとの差別化を求める声の関係者から寄せられており、今回の新ロゴマークでは、他国産 (WAGYU) との明確な差別化と日本産であることを大きくアピールするデザインとなっている。この新ロゴマークは、従来のロゴマークと併用して使用される。

和牛 PR セミナーでは、強谷雅彦事務局長 (中央畜産会専務理事) が香港での和牛輸入に感謝し、新しくなった和牛のロゴマークを

紹介、より一層の日本産和牛への支持を頂きたいとあいさつし、▽和牛の特徴と生産状況▽日本産和牛と外国産 WAGYU の違い——などを紹介。その後、植村光一郎理事 (ミートコンパニオン常務取締役) が講師となり、和牛肉の特質を解説、カットおよび調理実演を行った=写真。



植村理事は、和牛の格付けが品質と歩留りで構成されていることや、和牛の飼養管理 (繁殖、肥育) および血統 (種雄牛) を紹介。和牛肉の特性では、脂肪の融点と和牛の香りを説明した。カット実演では、薄切り肉のスライスとステーキカットが披露され、肉質により調理方法も異なることが紹介された。試食には、カルパッチョ

とステーキが提供されたが、オレイン酸の多い和牛肉とともに、同じくオレイン酸が多く含まれるオリーブオイルの相性の良さを味わえるカルパッチョに絶賛の声が上がっていた。植村理事は、今回のマスコミ対応のなかには多数のプロガーが参加しており、香港でのプロガーによる情報発信力の強大さを痛感したとコメントしている。

## ○ 対タイ、対ミャンマー、対香港の輸出施設にそれぞれ 1 施設を追加—厚労省

厚労省は 23 日、対タイ輸出食肉取扱施設、対ミャンマー輸出牛肉取扱施設及び対香港輸出豚肉を取扱う選定施設についてそれぞれ 1 施設の新規施設を登録した。対タイ輸出牛肉取扱施設には、横浜市の横浜中央と畜場・株式会社日本精肉店ミートセンター (食肉処理場)。対ミャンマー輸出牛肉取扱施設は、姫路市の和牛マイスター食肉センター (と畜場及び食肉処理場)。対香港輸出豚肉を取扱う選定施設は宮崎県のサンキョーミート株式会社霧島ミート工場。